

家庭科(家庭総合)学習指導案

指導者

- 1 履修単位数 2単位
- 2 実施日時 令和7年10月 日 () 第5時限
- 3 学 級 HR (名)
- 4 使用教科書 家庭総合(実教出版)
- 5 単 元 名 第9章 消費行動を考える
- 6 単元設定の理由

- ① 生徒観・・・ 本ホームルームは、34名から構成されている。活発で意欲的な生徒が多く、日々の生活の中で、ネットショッピング、サブスクリプション、無料アプリ等についても抵抗なく利用している。一方で、契約の法的意味合いや、事業者との情報格差について認識しないまま、多様な形で契約行為を行っている状況が予測される。また、生徒は、話し合いや意見交換には積極的に取り組む姿勢が見られるが、自分の考えを文章で表現する場面では、理解や進度に差が見られるため、電子黒板での視覚的提示や個別支援などを通じて丁寧に指導し、消費生活分野の学習を通して、自立した生活に必要な消費者力を身に付けさせたい。
- ② 教材観・・・ 本単元は、「近年の消費者問題や消費者の権利と責任について理解し、自立した消費者として適切な意思決定に基づいて行動できるようにすること」(学習指導要領解説)をねらいとしている。単に契約の知識を教えるだけでなく、「持続可能な消費生活」の実現に向けた責任ある消費行動を考える土台を築く重要な単元であることを踏まえ、消費者には、権利だけでなく責任もあることを自覚して、環境や社会へ与える影響をも考慮して適切な意思決定ができる能力を身に付けることができるようにする。
- ③ 指導観・・・ 中学校段階で既習の悪質商法についての学習内容を基に消費生活の現状と課題を把握して、生活情報の収集・整理や活用ができるよう、実生活と関連付けた指導が必要である。成年としての自立を意識し始める時期に、契約や消費者保護の仕組みについて具体的な事例を通したグループ活動を実施するなど、生活に根ざした意思決定力を育成できるよう、主体的・対話的な学びとなる指導を工夫する。

7 単元の目標

- (1) 消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や責任ある消費の重要性について理解を深めるとともに、生活情報の収集・整理が適切にできる。また、消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう、消費者問題や消費者の自立と支援などについて理解するとともに、契約の重要性や消費者保護の仕組みについて理解を深めることができる。
- (2) 自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動できるよう考察し、責任ある消費について工夫することができる。
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、消費行動と意思決定について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

8 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や責任ある消費の重要性について理解を深めているとともに、生活情報の収集・整理が適切にできる。 ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう、消費者問題や消費者の自立と支援などについて理解しているとともに、契約の重要性や消費者保護の仕組みについて理解を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動できるよう、責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、消費行動と意思決定について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

9 指導と評価の計画

第1次	消費行動と意思決定	・・・	1時間
第2次	消費生活の現状と課題	・・・	3時間（本時1／3）
第3次	消費者の権利と責任	・・・	1時間
第4次	ライフスタイルと環境	・・・	2時間
第5次	暮らしと経済	・・・	2時間
第6次	将来のライフプランニング	・・・	1時間

	ねらい・学習活動	評価の観点			評価規準・【評価方法】
		知	思	態	
第1次	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な消費行動とはどういうことか、多角的に考える。 情報社会における生活情報とは何か、またその適切な活用方法について学ぶ。 	○	○		<ul style="list-style-type: none"> 生活情報の重要性を理解している。【ワークシート】 主体的な消費行動について考察したことを表現している。【ワークシート、発表】
第2次	<ul style="list-style-type: none"> 契約に関する理解を深め、様々な販売方法を学ぶ。 契約に関する法律を理解する。 問題商法を未然に防ぎ、早期解決の方法を考える。 	○	○		<ul style="list-style-type: none"> 契約の基本的な仕組みや消費者保護の制度について理解している。【ワークシート】 事例をもとに適切な対応を考えている。【ワークシート、行動観察】
第3次	<ul style="list-style-type: none"> 消費者と事業者の格差を理解し、消費者の権利と責任を考える。 これからの社会に求められる消費者の自覚と、行動のあり方を検討する。 	○	○		<ul style="list-style-type: none"> 消費者の権利と責任について理解している。【ワークシート】 自立した消費者としての行動を考察し、論理的に表現している。【ワークシート、行動観察】
第4次	<ul style="list-style-type: none"> 日常の生活が地球環境問題やグローバル社会の諸問題と密接に関わっていることを理解する。 持続可能な社会の実現に向けた消費行動について考え、実践に向けた行動目標を立てる。 	○		○	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な社会の実現に向けた消費行動について理解している。【ワークシート】 自らの生活に取り入れる方法を考え、自分や家庭、地域の生活向上に向けて実践しようとしている。【ワークシート、行動観察】
第5次	<ul style="list-style-type: none"> 生活における経済と社会のかかわりについて学ぶ。 家計の構造について理解する。 収入と支出にどのような項目があるか理解する。 適切な家計管理について考える。 	○	○		<ul style="list-style-type: none"> 家計の構造や収支のバランスについて理解している。【ワークシート】 適切な家計管理の方法を考え、論理的に表現している。【ワークシート、行動観察】
第6次	<ul style="list-style-type: none"> 将来のライフイベントとその費用について考える。 将来起こるかもしれないリスクを考える。 将来に備えた長期的な経済計画について学ぶ。 金融商品について理解する。 	○	○		<ul style="list-style-type: none"> 将来のライフイベントと費用やリスクを踏まえた長期的な経済計画について理解している。【ワークシート】 将来のライフイベントに備えた経済計画を立てることについて、課題解決に向けて考え、計画を工夫している。【ワークシート、発表】

10 本時の指導目標

- ・契約の仕組みと原則について理解している。（知識・技能）
- ・消費者市民社会の担い手としての消費生活の実現を目指し、様々な契約トラブルの背景や対応策について考察したことを論理的に表現することができる。（思考・判断・表現）

11 本時の展開

時間 (分)	学習内容	指導上の留意点	学習活動における 具体の評価規準	評価方法
導入 7分	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットで教科書p228の「これは契約だろうか？」クイズに回答し、自分の消費行動が契約とどう関わるかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クイズの結果を電子黒板に提示し、生徒の既有知識を引き出す。 		
<p>契約のルールや責任を理解し、適切な消費行動について考えよう！</p>				
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて、消費者トラブルの事例を確認し、契約の問題点を挙げる。 ・契約の仕組みと原則を確認し、契約自由の原則、口頭でも契約が成立するメリットとデメリットについて理解する。 ・クイズの回答や身近な経験と照らし合わせ、契約の成立要件を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者トラブルの事例（定期購入・課金・美容医療など）をグループで確認させ、契約の問題点について挙げさせる。 ・契約の仕組みと原則について、事例をもとに説明し、契約自由の原則と、口頭でも成立することのメリットとデメリットを解説する。 ・クイズを通して、契約の成立要件を整理し、売買契約の成立を図で確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・契約の仕組みと原則について理解している。 (知識・技能) 	ワークシート
	<ul style="list-style-type: none"> ・事例の内容を再確認し、なぜ若者が被害に遭いやすいのかをグループで考え、被害に遭わないための対応策について、タブレットの共同編集でまとめる。 ・グループでまとめた内容を発表し、多様なトラブル事例と対応策を共有し、契約の重要性に気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例の内容を再確認させ、若者が被害に遭いやすい理由をグループで考えさせ、トラブルの対応策をタブレットの共同編集でまとめさせる。 ・インターネットを活用して様々な視点から考えるように助言する。 ・各グループがまとめた内容を電子黒板に投影し、2分程度で発表させる。 ・契約の知識や未成年者取消権などについて確認し、内容のフィードバックを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者市民社会の担い手としての消費生活の実現を目指し、様々な契約トラブルの背景や対応策について考察したことを論理的に表現している。 (思考・判断・表現) 	行動観察
	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者と消費者の情報の格差について知り、消費者を守るための法制度の仕組みが必要とされていることを理解するとともに、消費者側にも責任が伴うことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者と消費者の間の情報の格差に大きな差があることについて触れ、消費者を守るための法制度の仕組みが必要とされていることを説明するとともに、消費者側にも責任が伴うことを理解させる。 		

まとめ 3分	・本時の振り返りをワークシートに記入する。	・消費者としての自覚を促してまとめとし、本時の振り返りをワークシートに記入させる。		
-----------	-----------------------	---	--	--

1 2 評価の目安と目標実現のための手立て

A	十分満足できる	<ul style="list-style-type: none"> ・契約の成立要件や契約自由の原則について、具体的な事例を交えて説明できる。 ・若者が巻き込まれやすい契約トラブルの背景を分析し、グループで議論した内容を論理的にまとめて表現している。
B	おおむね満足できる	<ul style="list-style-type: none"> ・契約の仕組みと原則について理解している ・消費者市民社会の担い手としての消費生活の実現を目指し、様々な契約トラブルの背景や対応策について考察したことを論理的に表現している。
C	Bを満たさない生徒への具体的な手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・契約の成立要件について、図解を用いて視覚的に提示して理解を支援する。 ・クイズを通じて、体験的に考えることができるように支援する。